

石川県立美術館だより

平成16年10月1日発行 第252号

没後30年 香月泰男展

私の シベリア、そして 私の 地球

9月25日(土)~10月24日(日)会期中無休



ダモイ 昭和34年(1959) 山口県立美術館蔵

ダモイ

『スコラーダモイ(帰国は近いぞ)この言葉を何度聞かされたことだろう。その度に私たちは飛び上がって喜んだ。しかし、いつまで待ってもダモイは来ず、ぬか喜びに終わることばかりだった。(略)』

そしてある日、突然ダモイの通知が届いた。収容所の中は喜びのかん声がどよめいた。

翌日、嚴重な所持品検査があった。私達は下着だけになって毛布にくるまり、所持品を前にならべ、フェルトの長靴をぬいで脇に置いて、おとなしく検査官の来るのを待った。その間にも、喜びと不安との入り交った、複雑な気持ちがおそってくるのだった。』

*註 上記は香月の自作解説です。香月は満州での敗戦後、旧ソ連により抑留され、2年間シベリアの収容所で強制労働を強いられました。「ダモイ」とはロシア語で「帰国」を意味します。

目次

没後30年 香月泰男展.....	2	展覧会回顧(古九谷へのまなざし).....	6
加賀藩の美術工芸.....	3	映像ギャラリー、各地の展覧会他.....	6
秋の優品選.....	3	第34回文化財現地見学、10月の行事案内.....	7
常設展示室 主な展示作品.....	4	所蔵品紹介、次回の展覧会.....	8
ミュージアムレポート.....	5	ミュージアムショップ通信.....	8

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

企画展示室（第7～9展示室）

没後30年 香月泰男展

私の シベリア、そして 私の 地球

9月25日(土)～10月24日(日)会期中無休

主催 / 石川県立美術館、朝日新聞社、NHK金沢放送局

特別協力 / 山口県立美術館 協力 / 香月家、三隅町立香月美術館



私の 地球 昭和43年 山口県立美術館蔵



香月泰男氏

します。

本展では、香月の創作の主軸をなすシベリア・シリーズ全五十七点を中心に、初期から晩年までの油彩と、水彩、素描、陶画類にオモチャ、テラコッタなどの愛らしい小彫刻、そして戦地から家族へ宛てた軍事郵便はがき《ハイラル通信》など、百七十点余の作品と資料により、画業の全貌と多様な造形世界、人物像を紹介します。

香月の生涯については、三回のトピックスをご覧ください。シリーズについて述べましょう。

シベリア・シリーズは自身の戦争体験を精魂を傾けて描き綴ったものでした。つまり、昭和十八年一月の山口西部第四部隊への入隊から、二十年八月満州奉天での敗戦までの二年八ヶ月、続いてソ連軍に捕らわれ、シベリアでの抑留の日々が二十二年五月まで、そして待ち望んだ「ダモイ（帰国）」の日が来て、復員、帰郷。この間の出来事を題材に、独自の技法と様式で描き、香月はもう一度シベリアを体験し続けたのです。

それらは時間軸に沿って描き続けられたものではなく、また何作で終了とも考えたものではありませんでした。香月は四十二年、三十三作目となる『復員（タラップ）』で、最後の作品とする気持ちがあったようですが、筆はその後も止まらず、四十九年、つまり死の年まで描き続けたのです。

いずれの作品も堅固な造形性により、背後に何が潜んでいるのかを知らずとも、深い悲しみや怒りをひしひし

香月泰男の没後三十年を機に、石川では初の回顧展、「香月泰男展 私のシベリア、そして私の地球」を開催

と感じさせる普遍性を勝ち得ています。しかし、香月は表紙の『ダモイ』に見られるように、言葉書きをそれぞれの作品に付し、私的体験記であることも銘記させます。戦後美術のモニュメントの一つであるシベリア・シリーズは、多面性を持った作品群なのです。

美術講演会（聴講無料・先着二〇〇名）

日時 10月3日(日)午後1時30分

場所 美術館ホール

演題 「香月泰男の世界 シベリア・シリーズ」

講師 立花 隆氏（ジャーナリスト）

ギャラリー・トーク（企画展示の入場券が必要）
9月26日、10月10・17・24日（いずれも日曜）
の午前11時より行います。

観覧料

一般	800円	個	個人	一般	650円	団体（20名以上）
大学生	600円			大学生	500円	
高中小生	300円			高中小生	200円	

当館友の会会員は受付での会員証提示により、団体料金で、ご覧になれます。

雲 昭和43年 山口県立美術館蔵



復員（タラップ） 昭和42年 山口県立美術館蔵



涅槃 昭和35年



常設展示室 (前田育徳会展示室)

特集

加賀藩の美術工芸

9月23日(木・祝)~10月24日(日)

前田家は初代利家から歴代藩主が文化事業に深い関心を寄せていました。なかでも三代利常は傑出した文化大名でしたが、大藩の外様大名という立場は、幕府への政治的屈従を強いられました。利常が天下一大名を誇示する唯一の方法が文化政策であり、それは反体制的姿勢の表明でもありました。豪放華麗な色絵を特徴とする古九谷は、その姿勢を如実に反映していると言っても過言ではありません。当初、武器や武具の制作・修理を行っていた細工所は、利常の代に美術工芸品の制作の場に改められ、時絵の五十嵐道甫や清水九兵衛、金工の後藤頭乗・程乗といった名工を高禄で召し抱えて、名品の制作や後継者の育成に力を注ぐことで、加賀藩の美術工芸は江戸や京都をもしのぐ水準を示し、極めて高い完成度をもった美術工芸品が収集・育成されました。

今回の展示で注目いただきたい作品を紹介します。劔太刀(重文)は四年ぶりの展示です。石突は欠失していますが、現存する同種のもの逸品です。鞘に施された鶴丸紋の螺鈿や、繊細な肉彫地透の技法による若松・唐草文の金具の技法から平安時代後期の精緻な工芸技術を見ることが出来ます。

また昨年より後藤家歴代の装剣小道具を紹介していますが、今回は初代祐乗を継いで足利將軍家に仕えた二代宗乗の作品を展示します。初代に似た作風ですが、やや穏やかな趣です。目貫、筭、小柄などの極めて限られた世界に、彫金の手法で独創的な美の世界を創造した後藤家歴代の作品が前田家に収集されています。

次に「百工比類」(重文)ですが、今回は木材類・金具類(引手・釘隠等)を展示します。五代綱紀が工芸の諸分野の製品や技法を比較対照するため、収集・分類・整理した標本で、江戸時代前期の工芸技術を知る資料として極めて貴重なものです。

このような作品を中心に二十一点を展示します。

広坂に金沢21世紀美術館がオープンし、「21世紀の出会い 共鳴、ここから」という開館記念展が予定されています。新しい美術館が加わることにより、兼六園・本多の森周辺は、まさに文化ゾーンの名にふさわしいはずまいとなりました。

新たにオープンする金沢21世紀美術館が現代の美術であるなら、石川県立美術館は古美術から近・現代の美術まで、そして石川にゆかりの作品を中心とした展示を心がけています。どちらの美術館も、設立の理念に基づいて作品を収集し、それを公開していきます。これからは、二つの美術館がそれぞれ個性を發揮し合い、どちらの美術館へも多くの人が訪れるように工夫を凝らしながら、展示を進めていくこととなります。そこで今回、当館らしさを追い求めて開催するのが「秋の優品選」です。

他の地域にはみられない、藩政時代以来の歴史と伝統に裏付けられた石川の芸術文化は、高い水準を維持してきました。幅広い分野で今日まで発展し続けてきました。こうした中、当館では、昭和三十四年に開館した旧石川県美術館の時代から通算して、現在までに二千七百点余りの作品を収蔵してきました。その中には、野々村仁清作の国宝・色絵雉香炉があり、重要文化財も六点を数えます。また、近現代美術部門においては、石川にゆかりの日本芸術院会員や重要無形文化財保持者をはじめとする、多くの優れた作家の代表作を収集してきました。

こうした地域の特徴をしっかりと踏まえ、作品を収蔵し、展示していくことが当館の務めと考えています。その成果として示されるのが、今回の「秋の優品選」です。第2から第6の常設展示室でそれぞれの分野の優品が展示されます。

常設はいつも一緒と思っというらっしゃる方、企画展だけで常設展に足を運ぶことの少ない方、今回はぜひおすめの展示です。



秋草図 喜多川相説

常設展示室 (第2~6展示室)

特集

秋の優品選

9月23日(木・祝)~10月24日(日)

常設展示室

主な展示作品

9月23日(木・祝)~10月24日(日)

● = 国宝 = 重要文化財
= 石川県指定文化財

前田育徳会展示室

特集 加賀藩の美術工芸
達磨渡江図

秋冬山水図屏風

アエナス物語図毛綴壁掛

饒太刀(石突欠) 附平緒

後藤家装剣小道具

百工比照

青貝敬字筆筒

色絵市松文平鉢 古九谷

狩野探幽

伝周文

N・アエルツ

二代宗乗

第1展示室

●色絵雉香炉

色絵雌雉香炉

特集 秋の優品選(第2~6展示室)

野々村仁清

野々村仁清

第2展示室

色絵百花散双鳥図平鉢 古九谷

青手菊文台鉢 古九谷

青手樹木図平鉢 古九谷

飴釉烏香炉

色絵武蔵野図片口水指

蒔絵螺鈿秋月野景図硯箱

緑地桐鳳凰文唐織 能装束

銀象嵌菊文鏡

秋草図

盛上菊図

初代大樋長左衛門

尾形乾山

伝五十嵐道甫

喜多川相説

真宗大谷派金沢別院蔵

第3・4展示室(油彩画・素描・版画・彫塑)

油彩画

高原

ETUDE(A)

和伎母一隅

とへ

伊東 哲

鴨居 玲

高光一也

田賀亮三

宮本三郎

素描

月に叫ぶ

阿蘇

女優像

版画

赤富士

樹心仏地

彫塑

折られていた花

青年像

鴨居 玲

西山英雄

宮本三郎

片岡球子

高光一也

木村珪二

坂 坦道

第5展示室(工芸)

陶磁

葆光彩磁チューリップ文花瓶

黒絵鳥紋楕円壺

漆工

迦陵頻伽宝相華文蒔絵経箱

染織

麻地友禅瓜模様振袖

金工

鉄打出鳩置物

木竹工

大般若理趣分経之箱

板谷波山

十代大樋長左衛門

松田権六

木村雨山

山田宗美

水見晃堂

第6展示室(日本画)

秋

山の秋

阿蘇嵐

拾牛図

秋韻

長江の朝

観覧料

下村正一

玉井敬泉

西山英雄

橋本閑雪

曲子光男

横山大観

一般 350円	個人	一般 280円	団体(20名以上)
大学生 280円		大学生 220円	
高校生以下は 無料	高校生以下は 無料		



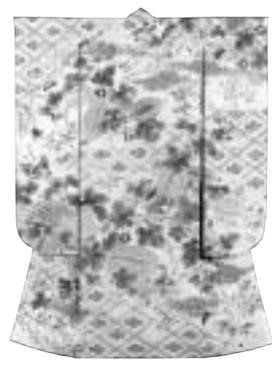
山の秋 玉井敬泉



とへ 田賀亮三



青年像 坂 坦道



麻地友禅瓜模様振袖 木村雨山

ミュージアム レポート

キッズ プログラム 体験講座

夏休み 親子で楽しむ美術館 親子で鑑賞会

夏休み期間中の企画として、わかりやすく、楽しみながら美術鑑賞が出来るようにと、昨年度から始めました「親子で楽しむ美術館」ですが、その展覧会にあわせて、今年も小学生とその保護者を対象に作品鑑賞を楽しみ、その材料の制作体験をして美術に親しんで頂こうと「夏休み親子で楽しむ美術館 親子で鑑賞会」を企画しました。

今年度は春から小学生向けの鑑賞講座を開いておりますので、そのつながりもあってか昨年度をはるかに上回る応募を頂き、改めて関心の高さに驚かされました。ありがとうございます。今年度は小学1・2年生は工芸に挑戦！・小学3・4年生は絵画（日本画）に挑戦！・小学5・6年生は学芸員に挑戦！と分野・学年を分け、それぞれの学年に応じたプログラムを準備し、作品の鑑賞と、作品の材料制作体験、または実際に作品での取り扱いに取り組みました。

7月27日(火)工芸に挑戦！ 小学1・2年生



親子で楽しむ美術館と、工芸の展示室である第5展示室で、工芸作品を鑑賞した後、堆朱のお箸づくりに挑戦しました。工芸の盛んな石川県に住んでいても、学校での授業で目にするものは絵画・彫刻作品が主になります。地場産業についても

高学年以降です。ですが、使うという役目があって美しいものである工芸品に、小学1・2年生といえど侮れない素晴らしい鑑賞眼を発揮していました。鑑賞後には堆朱のお箸づくりに挑戦。自分の力で頑張って仕上げたお箸は今ごろ朝晩の食事で活躍してくれていることと思います。

7月29日(木)絵画(日本画)に挑戦！ 小学3・4年生

普段あまり意識して鑑賞していない日本画の特徴などを

聞いた後、展示室でクイズを交えての作品鑑賞をしました。作品の部分アップでの鑑賞についても自分たちの使っている絵の具との違いを発見。その後、実際に岩絵の具や墨を使用しての材料・制作体験。今まで使ったことのない岩絵の具をにかかと混ぜるところからの体験に、親子ともども必死！このような材料を使って絵が描かれていたなんて！と参加者の驚きの様子が随所にうかがわれました。



7月31日(土)学芸員に挑戦！ 小学5・6年生

展示する側として作品を鑑賞していただいた後、実際に作品の取り扱いに挑戦していただきました。今回の第6展示室は子供さんの目線というコンセプトの下での展示ですので、作品がほかの展示室に比べて絵画や彫刻がはるかに低く展示されていること、移動ケースなど高い展示には台を準備したことなど、展示作品の鑑賞のほかに展示の工夫などをお話した後、実際に掛軸・彫刻・工芸の取り扱い



に挑戦。彫刻も材料によって、形によって注意点が変わるといったことや、掛軸一つをとっても広げる・掛ける・しまう難しさ、工芸作品の収納について、親子で真剣に体験されていました。

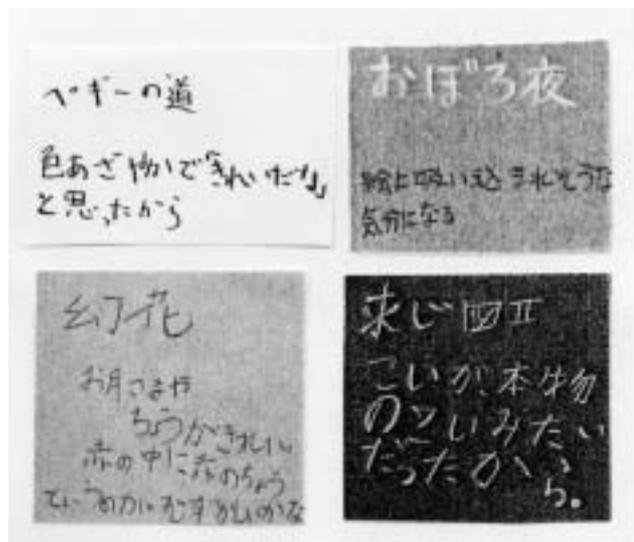
参加された皆さんからは「運良く今年も参加できました。とても楽しめました。」「昨年は残念ながら抽選漏れだったのですが、今年は当選！参加できました。親子ともどもとても楽しかったです。是非来年も！」「子供には難しいと思っていた鑑賞も、上手に楽しく参加して親のほうに驚きました。」など、たくさんの良かったという声をいただきました。ありがとうございました。またのご応募をお待ちしております。

VOICE

皆様から寄せられたご意見を紹介します

「夏休み 親子で楽しむ美術館 すてきな色をみつけよう」開催中に、‘あなたのすてきな色を教えて！投票箱’を設けました。皆様からたくさんの‘すてきな色’を教えてくださいました。展覧会が終わるまでなんと、635通の投票があり、感謝しております。ここに、一部ですが、皆様からの声を紹介させていただきます。ご協力ありがとうございました！

赤131枚 黄126枚 青201枚
黒84枚 金93枚でした。
作品では、「ペギーの道」が
人気 1でした！



映像ギャラリー

今月の映画・ビデオ

- 10月10日(日) ビデオ鑑賞会 / ホール
「国宝8 東寺」 (26分)
- 10月17日(日) 月例映画会 / ホール
「聖なるスキャンダル画家 マネ
一個の落日 ダンディズム」(23分)
「フェルメール 死を呼ぶ陶酔の空間
大衆状況下に消えた画家」(23分)
- 10月24日(日) ビデオ鑑賞会 / ホール
「国宝9 神護寺・室生寺」 (34分)
いずれも入場無料

今月の映像ギャラリーは、上記の内容で行います。
このうちビデオは、次のような内容です。

「国宝8 東寺」

空海が嵯峨天皇から賜り、真言密教の根本道場とされる東寺(教王護国寺)の講堂には、空海が独自に構想し

た立体曼荼羅が見られます。中央に大日如来を中心とした金剛界の五仏、その右に金剛波羅蜜菩薩を中心とする五菩薩、左に不動明王を中心とする五大明王など、密教特有の峻厳な世界を形成しています。

その他、現存する最古の彩色曼荼羅とされる両界曼荼羅図(伝真言院曼荼羅図)に加え、平安三筆の一人にあげられる空海自筆の「勸頂歴名」、「風信帖」といった、風格ある書風を示すものなどを紹介しています。

「国宝9 神護寺・室生寺」

神護寺の金堂の本尊・薬師如来像は、力強い迫力をもった平安彫刻の傑作として知られ、五大虚空蔵菩薩像は、頭部も体も肉厚で、豊満な美しさを見せています。また、日本肖像画の最高峰といわれる藤原隆信筆の源頼朝像、平重盛像、藤原光能像も収録されています。

室生寺金堂の釈迦如来像は、端正な顔立ち、堂々とした体躯、流れるような衣文のひだが見事で、十一面観音は、女性のなまめかしい美しさを思わせませす。また、わが国最小の五重塔は、深山の緑に囲まれて優美な姿を見せています。

展覧会回顧

古九谷へのまなざし - 昭和・平成の名工たち -



本展は、古九谷への熱いまなざしを創作の原動力とした、昭和・平成の名工たちの作品をとおして、古九谷の美的価値、そして文化的求心力を再認識することを趣旨として、

33作家による54点の作品を展示しました。

今回は、作家間の師弟・血縁関係や影響関係を構成単位とするブロック展示を意識しましたが、ブロック内は当然のことですが、ブロック間にも共鳴しあう共通の強固な意志が存在することを確認することができました。

その意志を一言で要約すれば、「イノベーション」ということができます。それは、今日的な訳語の技術革新のみならず、その源泉としての精神の自由な創造性を含むものです。古九谷の特質である大胆・斬新な意匠性と、それを可能にした技術の開発も、まさにイノベーションであったことを思い起こせば、「古九谷へのまなざし」が直視したのもこの1点に集約されます。

古九谷の産地を肥前とする意見もあります。当時の肥前はアジア各地からの技術の流入や、原料の確保が容易な点で、色絵磁器生産には恵まれた環境と考えることができるでしょう。しかし、古九谷に生命をもたらした強烈なイノベーションの源泉は、政治的には屈従を強いられても、精神の独立は侵させないとする加賀藩のポリシー以外考えられません。

今回の展示では、新たな造形を生み出す背景として、精神的な「場」としての地域性がいかに重要であるかを再認識することができました。今回は特別陳列という制約がありましたが、このテーマは、将来企画展でじっくり取り組みたいと考えています。

(村瀬博春 学芸主査)

金沢21世紀美術館がいよいよオープン!

10月9日(土) 金沢市役所の東となり、兼六園の斜め向かいに「金沢21世紀美術館」が開館します。16の展示室とシアター(劇場)やホール、アートライブラリー(図書室)や子供のためのキッズスタジオなどを備えた芸術総合施設です。全館ガラス張りの壁に覆われた新感覚の美術館が誕生します。

当館友の会会員は、会員証提示で団体料金に割引されます。

開館記念展「21世紀の出会い-共鳴、ここから」
2004年10月9日(土)~2005年3月21日(月・祝)

開館時間

午前10時~午後6時(金・土曜日は午後8時まで)

休館日

月曜日(月曜日が祝日の場合はその直後の平日)

年末年始

お問い合わせ

金沢21世紀美術館

石川県金沢市広坂1-2-1 ☎076-220-2800

<http://www.art.city.kanazawa.ishikawa.jp>

各地の展覧会 10月

開催日程、休館日、内容等は直接各館へお問い合わせ下さい。

彫刻 と 工芸 近代日本の技と美 10/24まで
静岡県立美術館(静岡市・054-263-5755)

リキテンスライン版画の世界 11/7まで
名古屋市美術館(名古屋市・052-212-0001)

「高山辰雄-墨色の世界」展 10/1~11/7
富山県水墨美術館(富山市・076-431-3719)

ピカソ、ミロ、ドローミエ ヨーロッパの版画 10/8~11/8
福井県立美術館(福井市・0776-25-0452)

第34回文化財現地見学

～お伊勢参りと三重の芸術探訪～

参加者募集!

期 日 10月30日(土)～31日(日)

1泊2日。宿泊は伊勢市。

参加費 21,000円(友の会会員外は22,000円)

募集定員 45名(対象は原則として成人)

見学予定地

たかだほんざんせんじゆじ
高田本山専修寺(津市)

真宗高田派の総本山。親鸞聖人の御直筆をはじめ、たくさんの法宝物がある。如来堂や御影堂(大修理中)など多くの重要文化財を持っている。

三重県立美術館(津市)

三重県にゆかりの深い作家の作品や、モネ、シャガールの作品をはじめ、国内外の美術品が約5000点所蔵されている。

企画展「20世紀にみる人間展」開催中

さいくう
齋宮歴史博物館(明和町)

伊勢神宮に仕えた齋王の宮殿である齋宮の遺跡後に建てられた博物館。歴史的資料・王朝文学・考古学的資料などから、齋宮・齋王について映像や模型で紹介している。

伊勢神宮内宮・外宮(伊勢市)

伊勢神宮は正式には神宮といい、内宮(皇大神宮といい、天照大御神を祀る)と外宮(豊受大神宮といい、豊受大御神を祀る)を中心に、別宮・摂社・末社・所管社を合わせて125社からなっている。神宮への参拝は外宮から行うのが正式とされている。

あさまやまこんごうじょうじ
朝熊山金剛証寺(伊勢市)

伊勢神宮の鬼門を守る寺として、神宮の奥之院ともいわれている。昔は「伊勢を参らば朝熊かけよ、朝熊かけねば片参り」とうたわれ、伊勢神宮に参ったあとは必ず参詣した寺。

神宮美術館(伊勢市)

現代日本美術界を代表する文化勲章受章者、文化功労者、日本芸術院会員、重要無形文化財保持者(人間国宝)から伊勢神宮に奉納された作品を、収蔵・展示している。

お申し込みの方法

例年参加ご希望の方が多いため、事前に参加希望者全員の立ち会いのもとで厳正な抽選を行い、申し込み者を決定させていただいております。当選の方はその場でお申し込みを受付いたします。今回の抽選会は10月24日(日)の予定です。ご希望の方は当日午前10時までに当館ホールへ直接ご来場ください。なお、当選された方はその場で参加費をお納めください。

ご注意

抽選会出席者以外の方のお申し込みは一切お受けいたしません。

参加希望者一名につき、必ず一名ご来場下さい。

友の会会員の方は会員証を必ずご持参下さい。

当選後、参加の権利をキャンセルされる場合は必ず当館へご連絡していただきます。その後当館より、キャンセル待ちの方へ順番に参加権をお譲りしていきます。

二日間にわたり長時間のバス移動があり、また相当の距離を歩くこととなります。移動と観覧時間には十分配慮いたしますが、お身体の具合、特に足腰に自信のない方は、今回の参加をご遠慮ください。



昨年度見学地 安倍文殊院にて

10月の行事案内 《入場無料(ギャラリートークを除く)・いずれも午後1時30分から行います》

月 日	行 事	内 容	会 場
10/2(土)	美術講座	能楽の意匠 (前田武輝 学芸専門員)	講義室
10/3(日)	美術講演会	「香月泰男の世界 シベリア・シリーズ」 講師:立花 隆氏(ジャーナリスト) 聴講は無料ですが、先着200名までとさせていただきます。	ホール
10/9(土)	キッズプログラム	鑑賞講座「秋の優品選」 (西ゆう子 学芸主任) 小学生対象の講座です。常設展示を鑑賞しながらの作品講座になります。	講義室
10/10(日)	ビデオ鑑賞会	国宝8 東寺(26分)	ホール
10/16(土)	美術講座	香月泰男のシベリア・シリーズ (二木伸一郎 学芸専門員)	講義室
10/17(日)	月例映画会	聖なるスキャンダラス画家 マネ 一個の落日 ダンディズム(23分) フェルメール 死を呼ぶ陶酔の空間 大衆状況下に消えた画家(23分)	ホール
10/23(土)	ギャラリー・トーク	秋の優品選 (末吉守人 学芸第一課担当課長) 展示室内で行われるため、常設展示の入場券が必要です。	常設展示室
10/24(日)	ビデオ鑑賞会	国宝9 神護寺・室生寺(34分)	ホール

10月の全館休館日は25日(月)～27日(水)です。

宮本氏は小松市に生まれ、上京後、川端画学校に学んで藤島武二の指導を受け、のち安井曾太郎に師事します。昭和2年第14回二科展に初入選、以後同展に出品しています。陸軍省から派遣されて南方戦線に取材した「山下・パーシバル両司令官会見図」が18年第2回帝国芸術院賞受賞。戦後、22年に二紀会を創立し、その中心的存在となって会の運営にあたりました。

この素描のモデルとなったのは、無名の女優だったそうですが、氏は、彼女が17,8歳のころから、モデルとして飽くことなく描き続けました。氏の著書 人物画の描き方 には「形の描写と陰影の描写を分けしないで、形の描写の進行と平行しながら、それが陰影関係と密接に関連していくことを考慮する。」など、素描を制作する上での要点が述べられていますが、それはこの作品にももうかがうことができます。人物の形を正確に把握しながら、大きなタッチを積み重ねて、髪や衣服と背景を有機的に結合させ、一つの空間の中での陰影関係を巧みにとらえています。

素描というと本制作の下絵や習作のように思われがちですが、この作品は、形を正確に描写するだけにとどまらず、一旦自分の中でその形を昇華し、人物やそれを取り巻く空気さえも鋭敏に捉え表現しており、一つの完成された作品に仕上がっています。素描画家としても優れた技量を持つ氏の一面を垣間見ることができます。

第3展示室で展示中



じょゆうぞう
女優像 紙 パステル
みやもとさぶろう
宮本三郎 明治38年(1905)~昭和49年(1974)

昭和35年頃(c.1960)
縦49.1 横29.5(cm)

ミュージアムショップ通信

皆様、お待たせ致しました。いよいよ企画展「没後30年 香月泰男展」が開催されます！企画展TOPICの3回シリーズで紹介してきましたが、香月氏の初期から晩年までの油彩画・水彩素描・陶画・テラコッタなど、約180点からなる回顧展です。中でもシベリア・シリーズは深い感銘を受けます。

そこで今月は、展覧会図録香月泰男 私のシベリア、そして私の地球を紹介しましょう。定価は2,400円。展覧会をご覧になった後は是非この一冊を手にとってください。



香月泰男 私のシベリア、そして私の地球 (2,400円)

次回の展覧会

特別陳列 彫刻家 清水良治展 (第3展示室)
特集 尊經閣文庫名品選
(前田育徳会展示室)

特集 石川県の名宝 (第2展示室)

10月28日(木)~11月23日(火・祝)

休館日：10月25日(月)~27日(水)

石川県立美術館だより 第252号

2004年10月1日発行

〒920-0963 金沢市羽町2番1号

TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>